相手側への質問・反論

「治らない病気を患者に知らせるべきか」肯定側からの質問と想定される否定側の意見

ディベート・マッチを想定した相手側への質問と想定される相手側の意見です。事前の準備段階で用意したものです。

Q 残り時間を有意義に過ごすためにも告知した方がよいのではないですか。	A 残った時間、有意義に過ごすというのは、病気を甘く考えていると思います。
Q 患者は自分の体のことを知る権利があると思うのですが、そのへんはどう考えていますか。	A 医師としても病状の悪化、精神的負担なども考えなくてはならないと思うので知らせなくてもよいと思います。
Q 告知された方が強く生きられると思うのですが、どう思いますか。	A 人の心はそんなに強くないと思います。
Q 医師が告知しなくても患者はうすうす分かっていると思います。それならはっきり言った方が患者のためになると思うのですが、どうですか。	A 患者にはっきり言った方が患者のためになるかどうかは、その人によると思います。だから、私たちは患者のためを思って告知しない方がよいと言っているのです。
Q 法律上は、がん告知の適否は、医師の患者に対しての説明義務なのではないですか。	A がん告知をするべきかどうかは、医師の説明責任ですが、患者の心身に悪影響を及ぼすのであれば、時と場合によって患者に告知しなくてもいいと思います。
Q 告知しなくて患者の病気が悪化したら、患者にどう説明するのですか。	A 医師が患者のためを思って告知しなかったのなら、そのことを患者に理解してもらえばよいと思います。

「治らない病気を患者に知らせるべきか」否定側から肯定側への反論

事前に準備した相手側への反論になります。

Q 知らされたときのショックは、体の苦痛より非常に大きいものではないでしょうか。

Q 知らされない方が精神的に負担が少ないと思うのですが、どう考えていますか。

Q 病気だったら体がいうことをきかず好きなことができません。だから、告知されてもべつに体が治るというわけではありません。それなら、わざわざ落ち込ませるようなことは言わない方がいいと思いますが、どうですか。

Q もし、患者が今まで幸せな家庭をもっていたとすると、告知されたことで、家族の生活がかき乱されるのではないですか。

Q 告知により死にたくないという気持ちが広がって、孤独感が強まってしまうと思うのですがどうですか。

Q 告知をしたせいで、病状が悪化したらどうするのですか。

Q 最後の最後まで生きる希望をもっていた方が患者のためではないですか。